

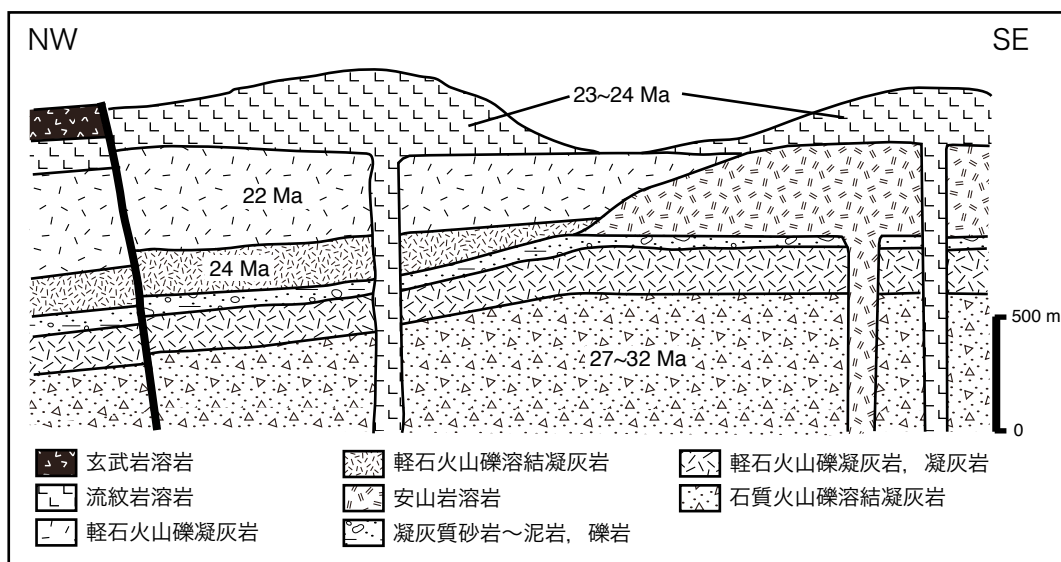
# 佐渡島大佐渡北西部に分布する 漸新統と下部中新統層序の再検討

佐藤雄大 (地球進化科学・地圏変遷科学 4 年)

日本海東縁地域に位置する佐渡島には、男鹿半島や能登半島と同様、日本海形成初期の地層が露出しているとされている (Shimazu et al., 1990). 島津ほか(1977), 通商産業省資源エネルギー庁 (1986) ほかの研究によれば、大佐渡地域において日本海形成初期の地層と目される地層は、下位から順に、入川層 (デイサイト火砕岩), 相川層 (変質安山岩溶岩・火砕岩), 真更川層 (安山岩～玄武岩溶岩, デイサイト火砕岩), そして、金北山層 (デイサイト溶岩・火砕岩) に区分できる. これまでの研究によって得られている放射年代は、入川層が 32～29 Ma, 相川層が 24～20 Ma, 真更川層が 24～22 Ma, 金北山層が 24～18 Ma 等となっており、これらは前期漸新世

から前期中新世にかけて形成されたことがうかがえる. しかし、実際には、岩相層序が明確でなく、年代も大幅に重複しているところがあるため、これらの地層群を対象に、層序を組み立て直し、放射年代についても変質の影響等を考慮して見直す必要がある. ここでは、変質の影響が比較的小さい大佐渡西北部において、現在まで得られた調査結果について報告する.

今回行った地質調査において、大佐渡西北部には、下位から変質凝灰岩、石質火山礫溶結凝灰岩、軽石火山礫凝灰岩・凝灰岩、凝灰質砂岩～泥岩・礫岩、安山岩溶岩、軽石火山礫溶結凝灰岩、軽石火山礫凝灰岩、流紋岩溶岩、玄武岩溶岩が分布していることがわかった (模式層序断面図参照).



模式層序断面図

日時：2月6日(水) 17時より

発表者：小澤佳奈 (地球変動学 4 年)  
国友良樹 (生物変遷科学 4 年)

座長：道口陽子 (地球変動科学 4 年)

佐藤 雄大 (地圏変遷科学 4 年)  
yudisato@geol.tsukuba.ac.jp  
道口 陽子 (地球変動科学 4 年)  
y-michi@geol.tsukuba.ac.jp  
興野 純 (鉱物学)  
kyono@geol.tsukuba.ac.jp

連絡先